

## 《全体会》：

この自治体と事業者の交流会は、平成19年度より第3回目の開催となります。又年々、多数のご参加をいただき、自治体のご担当者・中間処理施設事業者・企業関係者の皆様の、情報の共有化をはかり、相互理解を深める場となっております。

**当協議会 河合副会長**から、交流会の開催に際して、多数のご出席の皆様と、ご講演いただく講師の皆様へそれぞれ御礼を申し上げます。

「容器包装リサイクル法の円滑に運用する為には、各主体の連携・協働が欠かせず、自治体の皆様と我々事業者が意見交換を行いながら、それぞれの立場で再商品化の高度化に向けた取組みに結び付けられたら良い」との思いが伝えられました。

廃棄物処理量が少なければ少ないほど社会的総コストや多様な面で楽になり、その為には互いに知恵を出し合い、いかに少なくすることがスタートになければならないということ、又そのことが環境を守り、CO<sub>2</sub>の発生を抑え、資源の発生を少なくすると確信していると話されました。

このバックグラウンドを意識して、情報交換による情報の共有を図り、ネットワークを広げる場としてこの交流会を開催しており、この場を通じて、耳を傾けるところは耳を傾け、議論すべきところはきちんと議論し、日頃の活動に少しでも結び付けられればと付け加えて、開会の挨拶といたしました。

**環境省の上田室長**からは、プラスチック製容器包装リサイクルの高度化と、透明性の確保、多様化、量的拡大、制度の市場への対応についてなど基調講演をいただきました。また、最後に、リサイクルすることそのものへの素朴な疑問についても、「プラスチック原料の製造からリサイクルについての環境負荷より、資源を採取するところから、資源を廃棄するところまでの環境負荷の方が、明らかに大きい」といったことで、答えていきたい旨のご発言がありました。

**(財)日本容器包装リサイクル協会 斎藤部長**からは、20年度までの分別収集物の品質調査結果の詳細な分析と推移について報告がなされました。その中で全体として容器包装比率・破袋度は年々向上しているものの、禁忌品の混入率が上昇しており、自治体には更なる品質向上の取り組みとその継続的な実施、住民へ分別排出ルール of 徹底をお願いされました。また自治体による品質改善対策の取り組みや住民への協力依頼に対して、協会が出前講座や勉強会を実施していることのお話もありました。

**松山市 大野氏**からは、平成18年度、人口50万人以上の都市で、一人当たりの『ごみ排出量が日本一少ないまち』として、市の分別収集方法、資源化率などについて紹介がありました。品質改善については徹底した原因調査に始まり、ゴミ出しの悪い地域の選定とその対策方法、大学生に対する啓発実施の方法や今後の改善計画などについても説明されました。

**当協議会 滝田専務理事**からは、3R推進団体連絡会の活動について、事業者による3R推進に向けた自主行動計画の数値目標と実績、主体間の連携に資するこれまでの状況と今後の取組み、及び「3R事例集」の抜粋による事例紹介がありました。

各分科会では、話題・テーマにそって活発な意見が交わされ、皆様のご関心と議論内容が、次第に深められてきていることを実感しております。

自治体調査専門委員のコーディネートにより皆様のご意見の概要を報告いたします。その内容は以下の通りです。

## 《各分科会》：

### 司会者から

各分科会では、結論を出すところまで至っていませんが、それほどプラについては、問題が多いということです。それぞれの立場で、国に対して、問題点をぶつけていかなければ意味がありません。法、制度、仕組みを変えていかないと、議論されたことをいい方向に向けることができません。結論はだめせんでしたが、お互い考えていることが共有できたのではないのでしょうか。

### 自治体調査専門委員会委員長から

多数お集まりいただいた皆様、ご講演いただいた講師の皆様へお礼を申し上げます。

分科会の席上では、本当の意味での議論を深めるところには、必ずしも至らなかったこととお詫び申し上げます。

また、この交流会は3回を数えましたが、次回も継続して開催できますようご協力をお願い申し上げます。分科会の有り方については、検討を重ね、少しでも皆様との交流をより有意義にする仕方を考えていきます。

当専門委員会では、自治体の皆様とより良いプラの品質向上のために、どういうことをお互いが取り組んでいけば良いのかということについて、情報を共有いたしたく、調査させていただいておりますが、今後もご支援ご協力をお願い申し上げます。

— 以上 —